

料金後納
ゆうメール

一幸建設は昭和53年の設立以来、三河エリアで地元密着での建築と不動産に携わる会社です。本来ならば直接ご挨拶申し上げるべきところ不躰ではございますが、私どもの会社を知っていただきたいとの思いから、一度でも名刺交換などご縁を賜りました方に、ニュースレターを送付しております。仕事でかわった皆様にお力添えいただきながら、社員の幸せと日々の成長を糧に、地域の皆様に必要なとされる地元でのお役立ち企業を目指しております。東三河での建築と不動産に関することでしたら、小さなことでもお気軽にご相談ください。

代表取締役 山本敬輔 営業スタッフ一同

網戸張替えワンコインキャンペーン (ナノハナ電車広場 3月19・20日)

春恒例の網戸張替えワンコインキャンペーンを開催しました。例年、収益金は災害復興義援金として善意銀行を通して寄付していますが、今回は新型コロナ対策義援金（児童・学生、医療従事者への支援金）と窓開け換気対策の啓蒙といった主旨で、提携医療機関松岡医院（弥生町）に監修して頂き、完全予約制のドライブスルー形式にて開催しました。人数制限を行ったために、受付開始から3日程で全て予約が埋まってしまい、せっかくお問合せ頂きました方々にはお詫び申し上げます。2日間で59組161枚の張替えを行い80,500円寄付することが出来ました。ご来場賜りました皆様、また張替え作業に協力頂いた協力業者及び社員の皆様に感謝申し上げます。




2022年度 新入社員合同研修会 (名古屋国際会議場 4月4日)

本年度、工事課に本配属となった技能職見習いの鈴木大輝さんと新入社員合同企業研修会に参加しました。今年は何とかまん延防止が解除され2年ぶりの対面開催となりました。感染対策のため10日前から体調管理を行い、当日も対面パネルや間隔を開けてマスクを着用しての会話でしたので、グループ討論などがやりにくかった様ですが、その分お互いに気を使い合う事も学んだ様です。3年間一緒に学ぶ仲間として夏のフォローアップ研修での再開を約束して閉会となりました。



研修内容 9:30~17:40

- 第1講座 ミニコミュニケーションの必要性
★他企業の新入社員さんと自己紹介
- 第2講座 『働く』とは
★グループ討論『あなたにとって働くとは?』
- 第3講座 先輩社員から学ぼう
★グループ討論『学んだ事、活かしたいこと』
- 第4講座 経営者と語ろう
★グループ討論『私がつくる3年後未来への道』

参加企業 60社 163名



地元密着東三河での不動産と建築のことなら小さなことでもお気軽にご相談下さい！

※ニュースレターをご不要な場合はお手数ですが 0532-46-9336 まで

工法による進行の違い③

軸組工法（在来工法）と枠組壁工法（2×4工法）でそれぞれ建築していた住宅が完成しました。2軒ともご夫婦お二人のこだわりをつめこんだ住宅です。間取りや水廻りの設備など、お施主様が何を重要視されているのかによって、ご希望に合わせた住宅になっています。施工事例として内装写真等もサイトにUPしますので、ぜひご覧ください。

URL : <https://ikko-group.jp>



一幸建設の
コーポレートサイト↓



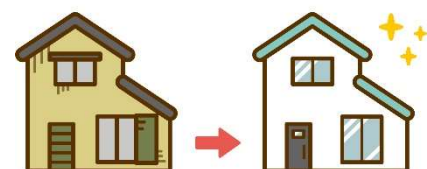
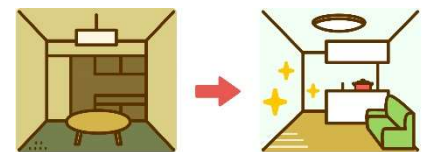
営業・設計 山崎

中古住宅を選択肢に

私自身建築営業の経験はまだまだ短いのですが、近年、住宅の市場は大きく変わっていると実感しています。新型コロナウイルス感染拡大から起こった輸入の制限からくる鉄骨のボルトや各部材、資材などの欠品。中国、アメリカ郊外への住宅建設ラッシュから起こったウッドショック。給湯器や住宅設備など、部品がたった一つでも入ってこないことで納期が遅れ、工期やお引き渡しにも影響が出ています。ガソリンなどの値上がりも重なり、様々な事情により住宅一棟あたりの単価が大きく上がってしまいました。

以前から、ここ東三河は土地の坪単価が安く、工場などの企業が多いため高所得者の割合が多いことや、車文化が根付いていることで、新築戸建ての市場が全国から見てもトップクラスと聞いたことがあります。それでもここ数年新築戸建ての価格は右肩上がりになっており、10年前に比べるととても同じ単価では建物を新築することができないのが現状です。もちろん研究成果により耐震性、断熱性能など建物の品質は上がっています。それに伴い、段々と新築戸建てを建てるには手が届かなくなっているとの声も聞くようになりました。

このような状況だからこそ、既存住宅を大切にすべきです。既存住宅を活用するという事は、今ある建物のリフォームや中古戸建を購入しリフォームすることです。社会情勢の観点から見てもSDGsの考えからなるべく資材を大切にすべきというメッセージが見て取れます。新しいものを取り入れることも大切ですが、現状の物を工夫し、再生する考えもこれからより大切になってくるのではと思います。



昔ながらの材木を活かし、断熱や気密性を上げることで快適な空間ができるようにすれば、既存住宅もまだまだ活躍ができるかと思っています。あと何年大丈夫なのか、安全性は問題ないのかなどご心配があるかもしれませんが、ぜひ一度お声をかけていただければと思います。

建築不動産営業 筒井